

福島第三小学校の現状分析 ～バックデータ集～



論より証拠 ・ 簡潔明瞭 ・ 強みと弱みを可視化

令和2年4月17日

福島市立福島第三小学校

Part.1

福島第三小学校の

【強み】Strength

各種学力調査における学力の状況【令和元年度】

✓ 令和元年度に実施した各種学力調査において、ほとんどの科目が全国平均を上回っている。(数値はすべて標準化した得点(全国平均正答率を100と見たときの本校の値))

1. 全国学力・学力状況調査(H31.4実施・6学年対象)

→ 6年生・・・国語:97.2 算数:102.1

2. ふくしま学力調査(H31.4実施・4～6学年対象)

→ 4年生・・・国語:100.9 算数:105.5

5年生・・・国語:112.5 算数:112.3

6年生・・・国語:101.5 算数:102.0

3. NRT学力調査(R元.2実施・全学年対象・教科総合)

→ 1年生・・・111.6 2年生・・・111.6

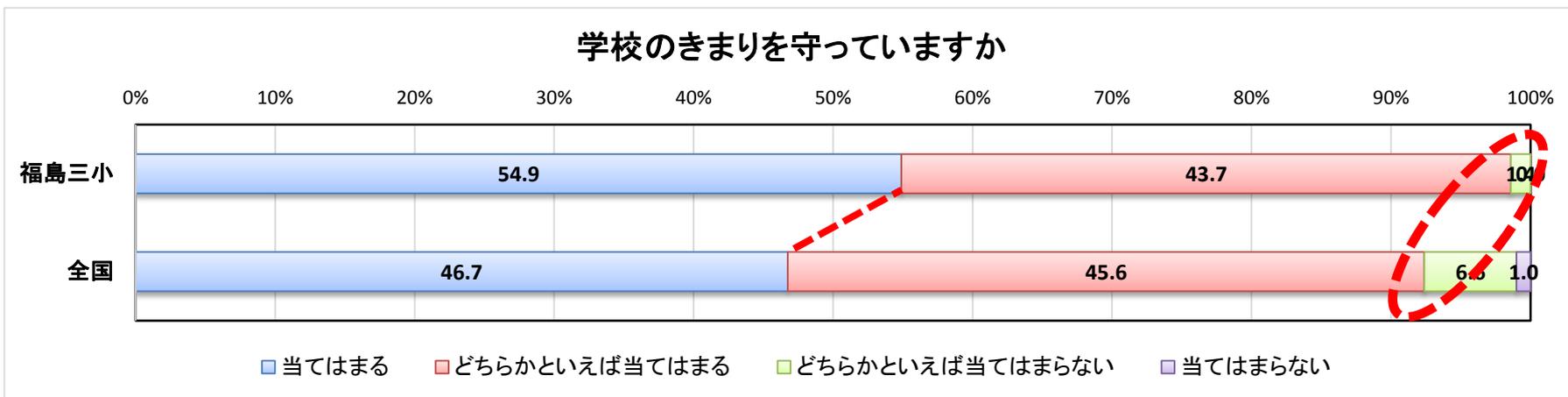
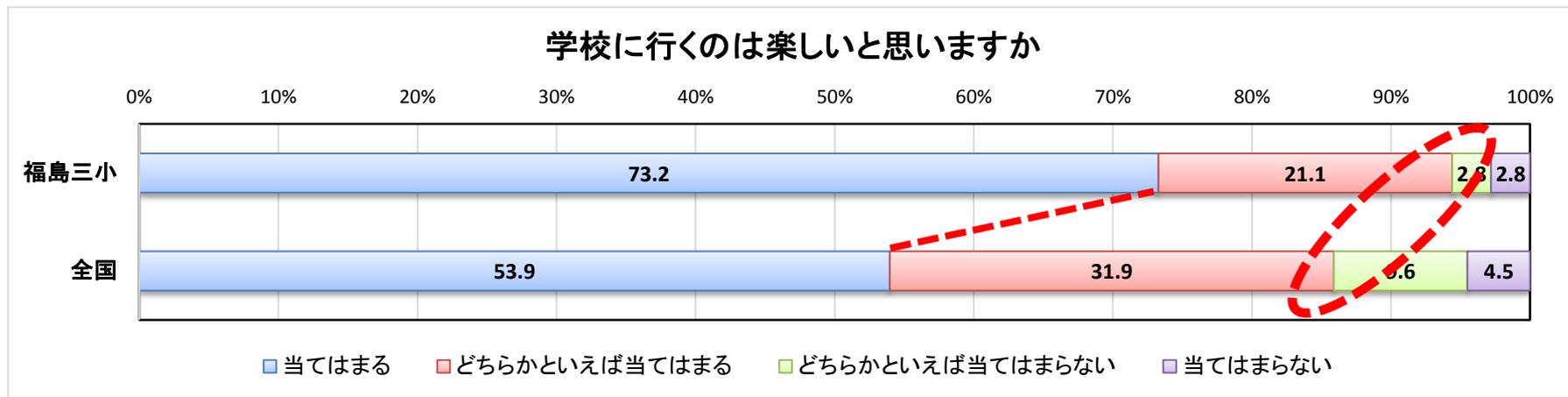
3年生・・・109.4 4年生・・・110.2

5年生・・・107.8 6年生・・・103.6

※ これらは児童が身に付けるべき学力の特定の一部であること、また、学校における教育活動の一側面出あることに留意してください。

学校が好きで、きまりを守ろうとする素直な子どもたち

✓ 「学校に行くのが楽しい」、「きまりを守る」と回答する子どもたちの割合が全国平均よりかなり高い。本校の教育力の高さがうかがえる。

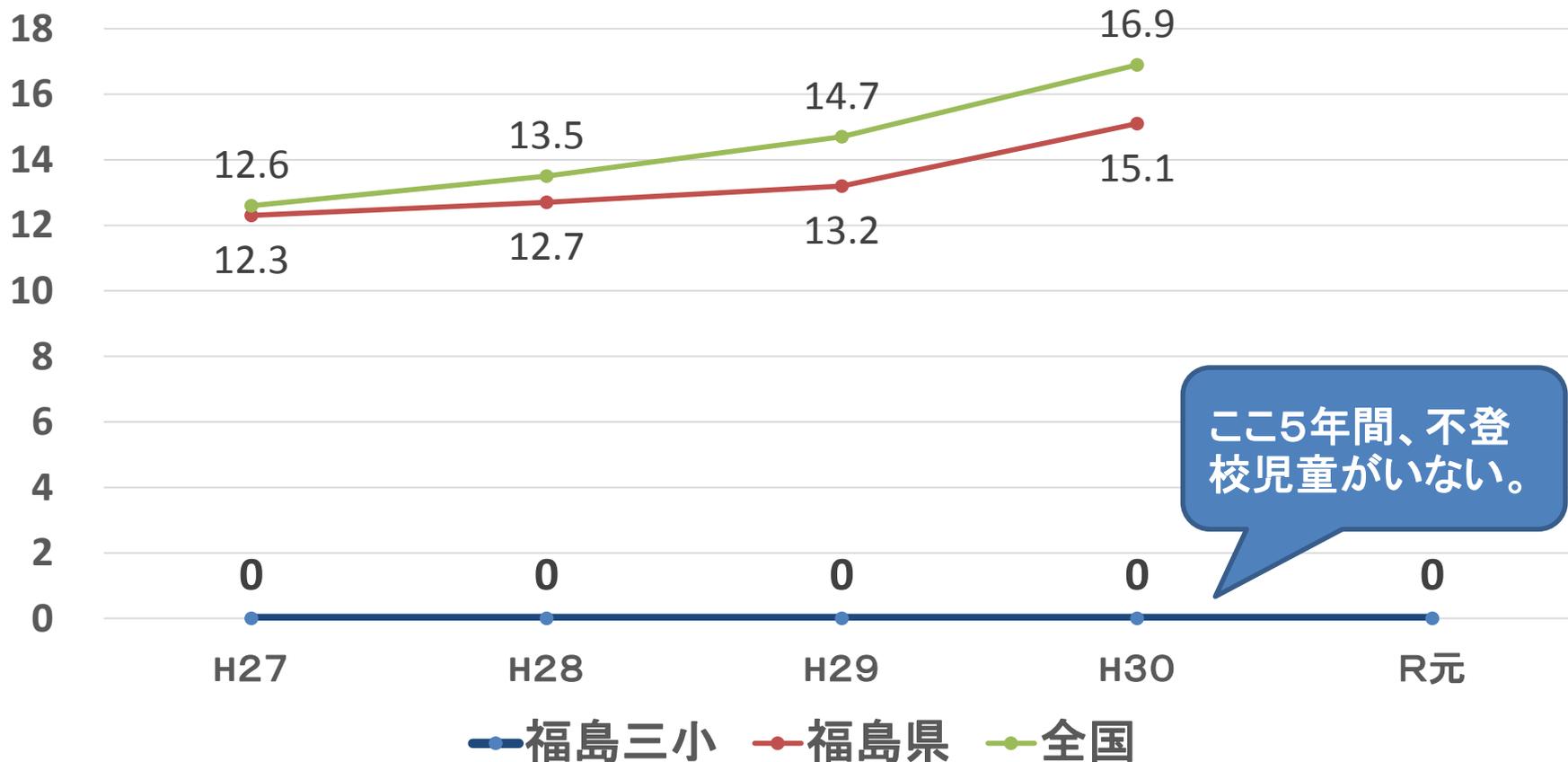


不登校の状況

- ✓ 全国及び福島県で不登校児童生徒の増加に歯止めがかからない状況の中、本校ではここ数年間、不登校児童が一人もない。

不登校児童の出現率の推移(1,000人当たり)

単位:人

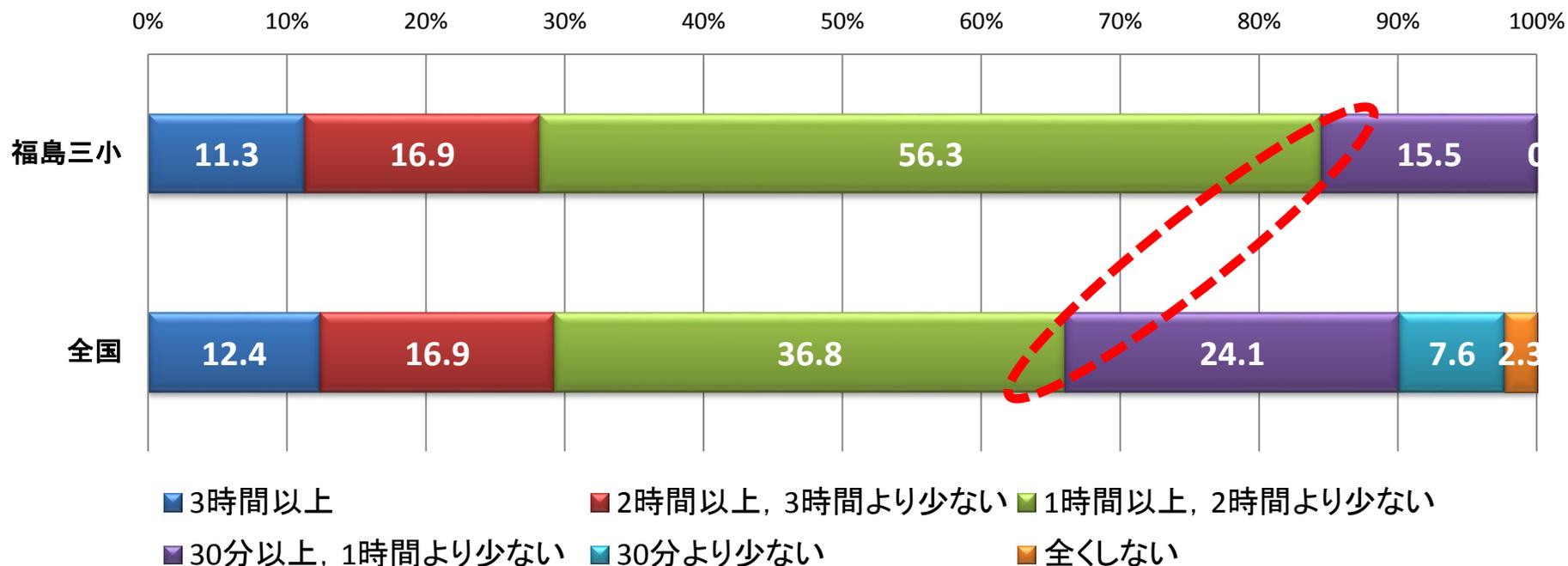


ここ5年間、不登校児童がいない。

家庭等における学習習慣が定着している子どもたち

- ✓ 平日、授業以外で1時間以上勉強する子どもの割合が約85%であり、全国平均を大きく上回っている。

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)



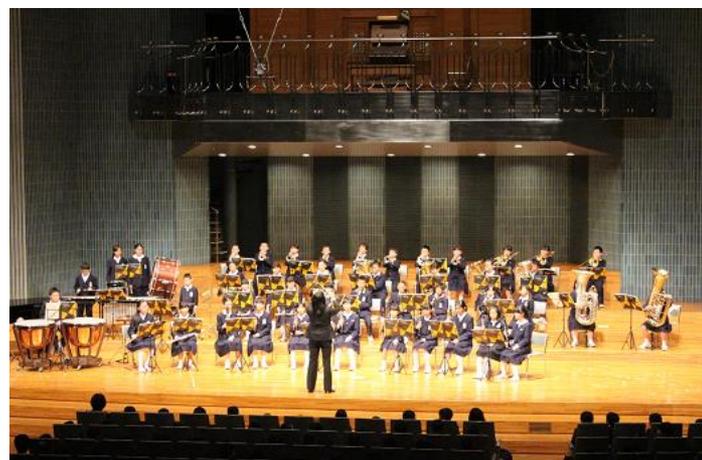
子どもたちの感性を育む音楽教育の伝統

- ✓ 愛の庭で毎月行っている「歌声集会」や音楽堂で毎年開催している「愛誠勇 音楽祭」など、本校ならではの音楽教育の伝統が子どもたちの感性を育てている。



左上:「歌声集会」の様子(R元. 11. 7)

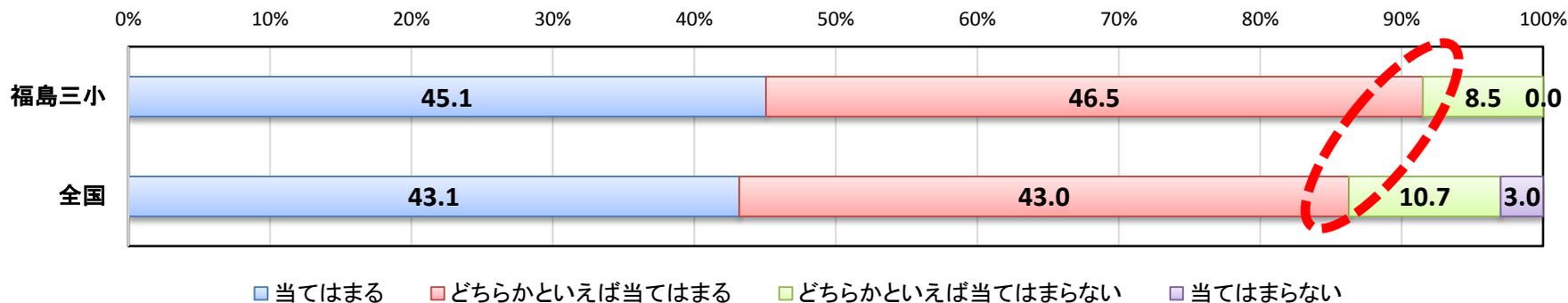
左下・下:「愛誠勇 音楽祭」の様子(R元. 11. 22)



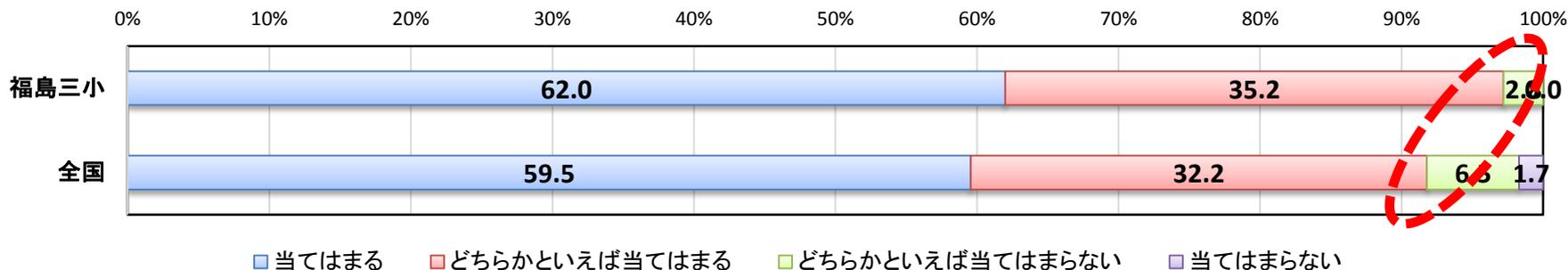
献身的に子どもたちの指導に当たる教職員

✓ 本校の教職員は献身的に子どもたちの指導に当たっており、子どもたちもそれを実感している。

先生はあなたのよいところを認めてくれていますか



先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていますか



本校教員による自らの「授業」への振り返り

～「授業スタンダード」アンケート(県教委・令和元年7月)より～

- ✓ 本時のねらいや単元構想を明確にもって授業に臨んでいる教員が多い。
- ✓ 学力調査の結果の分析等に課題がある。

No	上位5項目	平均
1	本時のねらいを明確にもっている。	3.4
1	授業の約束事や学習に向かう心構えを指導している。	3.4
3	単元(題材)の構想を明確にもっている。	3.2
3	外部講師の助言や校外研修の成果を共有し、日々の授業に生かしている。	3.2
5	授業研究会に主体的に参加している。	3.1

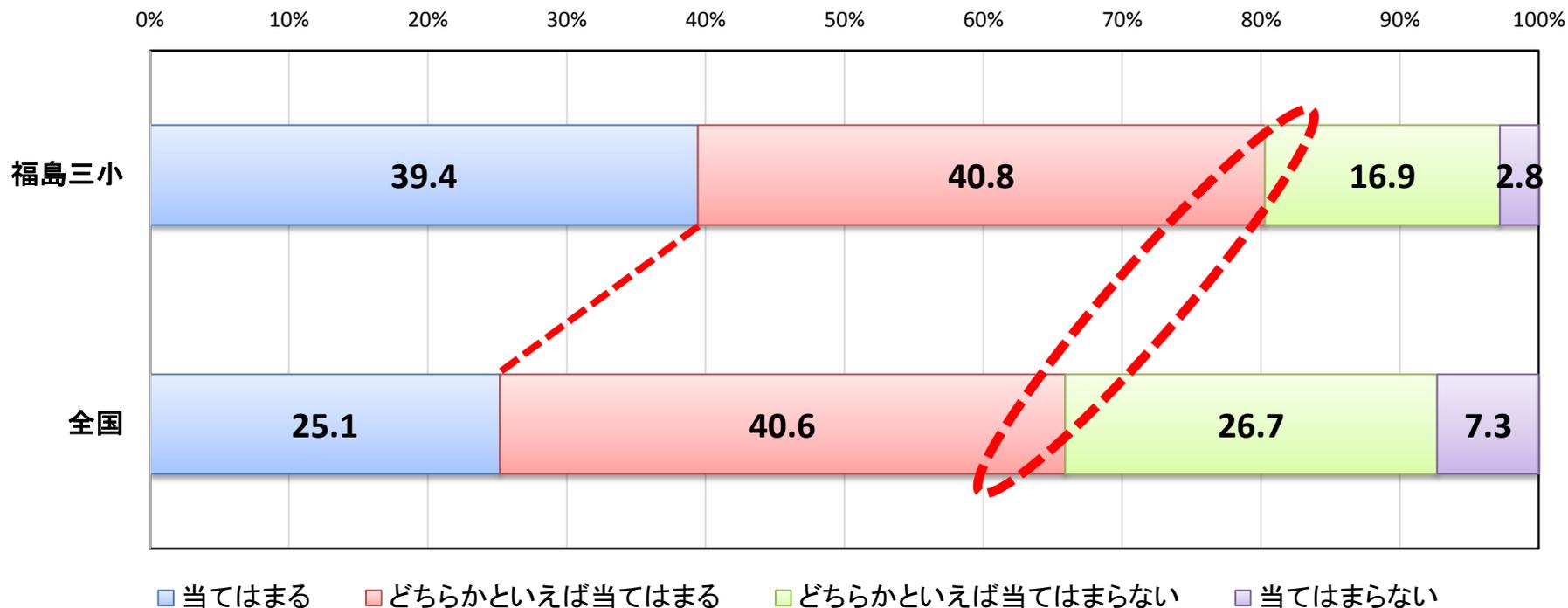
No	下位4項目	平均
1	全国学力調査の問題や結果等を参考にして、単元計画や授業展開を工夫している。	2.4
2	新たな学びに目を向けさせる終末になっている。	2.5
2	吟味し精選された発問をしている。	2.5
2	ノート指導を継続的に行っている。	2.5

※ 4段階のアンケートで、最高が4点、最低が1点、平均は2.5点

教育研究の伝統が受け継がれている「総合的な学習の時間」

- ✓ 総合的な学習の時間に「課題を立て、情報を整理し、調べたことを発表する」充実した学習を行っているという回答した子どもの割合が全国よりかなり高い。
- ✓ 20年余りの教育研究の伝統がしっかりと根付いている。

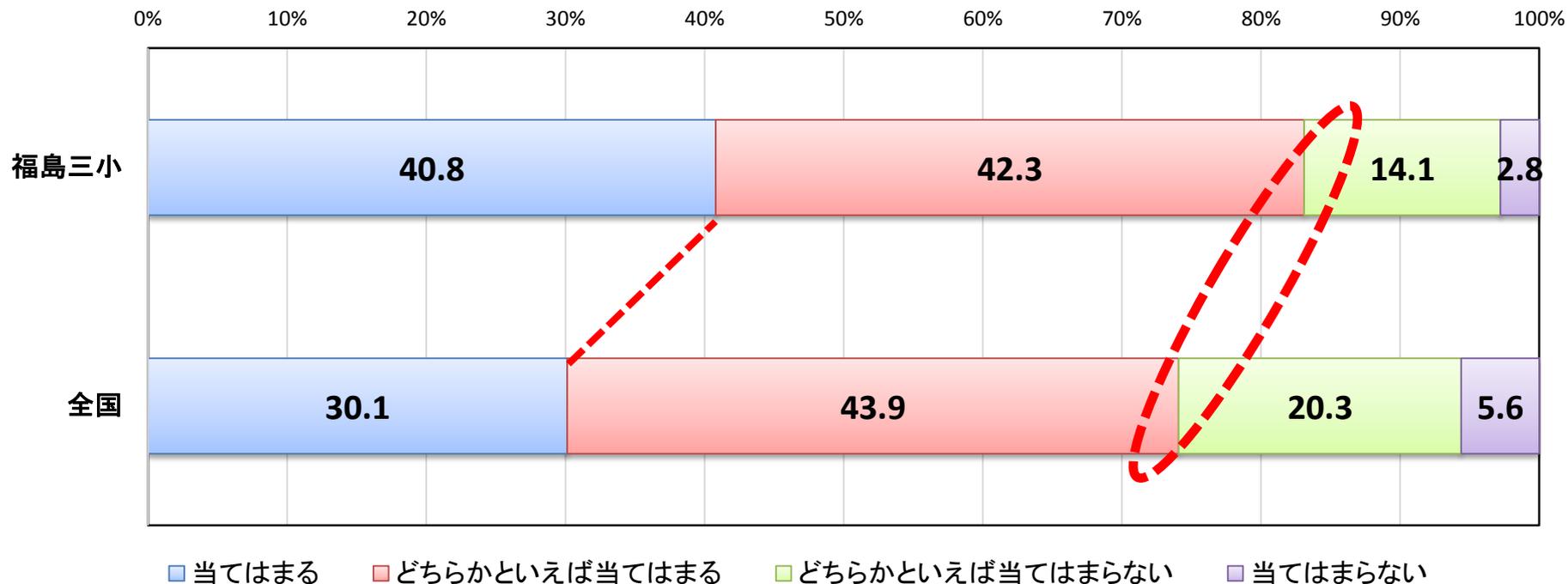
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか



教育研究の伝統が受け継がれている「特別活動」

- ✓ 学校生活をよりよくするため学級会で話し合い解決方法を決めていると回答した子どもの割合が全国平均を大きく上回っている。
- ✓ 20年余りの教育研究の伝統がしっかりと根付いている。

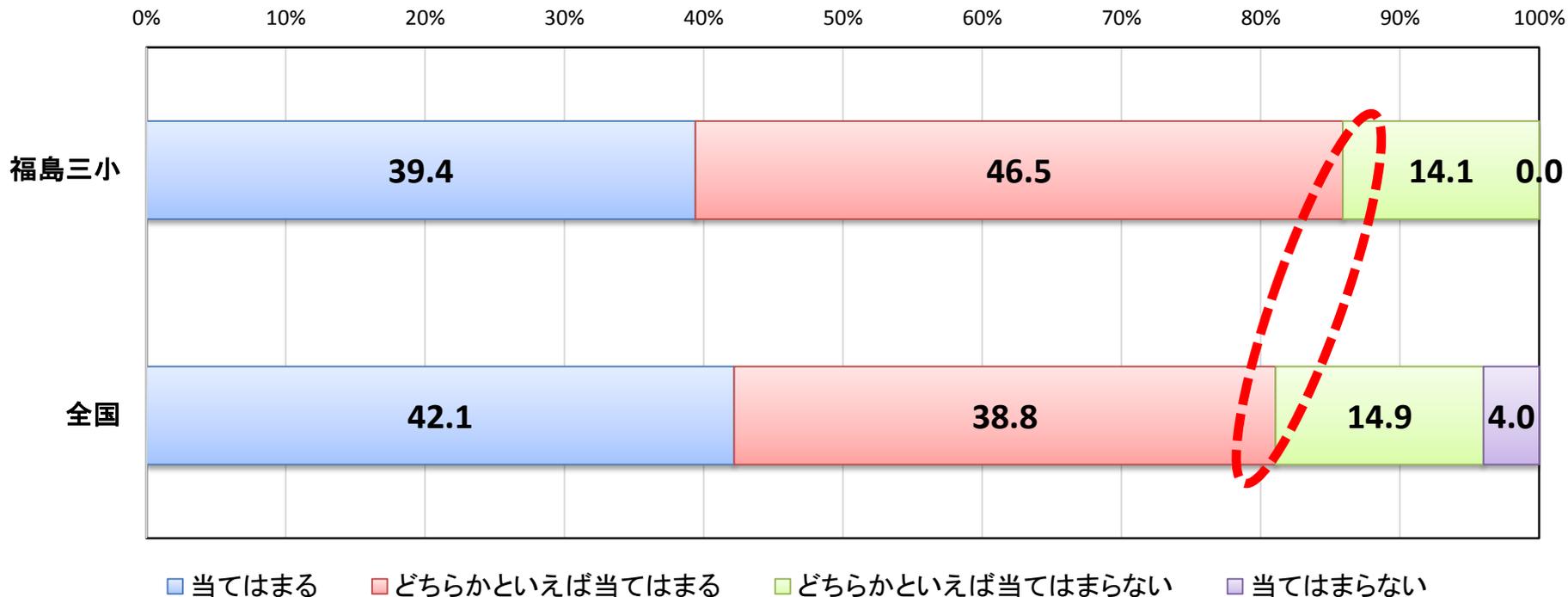
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか



教育研究の伝統が受け継がれている「道徳」

- ✓ 自分の考えを深めたり、話し合ったりする道徳の授業が行われていると回答した子どもの割合が全国平均を上回っている。
- ✓ 20年余りの教育研究の伝統がしっかりと根付いている。

道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか



県教委から「特別功績者表彰」を受賞するなど表彰多数

- ✓ 県教委の教育・文化関係特別功績者表彰式において「優秀教職員団体」として表彰
- ✓ 市教委から教職員研究報告会優秀研究作品表彰を受賞
- ✓ 弘済会福島県支部の教育実践審査会において「最優秀学校教育実践」として表彰

報 社会 (第三種郵便物認可)

県教委の教育・文化特別功績表彰

児童生徒7団体 優秀教職員 25人2団体

県教委は三十一日、全国一位に相当する活躍をした児童生徒や学習指導などで顕著な成果を上げた教職員を特別功績者としてたたえる二〇一九年度教育・文化関係表彰の受賞者を発表した。

児童生徒(団体)の部は七団体、優秀教職員(個人)の部は二十五人、二団体が受賞した。表彰式は二月五日、福島市の杉妻会館で行われる。

▽福島三小(佐藤秀美校長) 〓新学習指導要領の趣旨やアクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善を進め、成果を自主的に研究公開を行い、県内外の教育関係者へ発信している。



福島三小

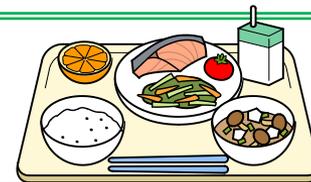
「福島民報(R2. 2. 1) 記事」より

「和食」を重視したおいしい自校給食

- ✓ 子どもからも保護者からも満足度が高く、「食育」の見本となっている自校給食。
- ✓ 「和食」を中心とした伝統的かつ健康的な食文化を次代に伝えることが必要。

給食試食会(R元.6.11)におけるアンケート結果(24人対象)より

【メニュー】 麦ごはん、新ジャガイモのうま煮、大根の浅漬け、手作り佃煮



Q)今日の給食の味付けや組み合わせはいかがでしたか。

(1)よい	24人	✓ 薄味の中にも素材の味がしっかり出ていておいしかった。 ✓ 家では味が濃いものを好んでいるので、素材そのものの味を知ることができる。
(2)ふつう	0人	✓ 薄味の見本のようなもので、とてもいいと思う。家でも試したい。
(3)悪い	0人	✓ 味付けが控えめで、食材(野菜)の味がよくわかっておいしかった。 ✓ 野菜がたくさん使われていておいしかった。 など

Q)日ごろ、お子さんと給食のことを話題にすることがありますか。

(1)ある	24人	✓ 「今日は全部食べた」と残さず食べた時、うれしそうに話してくれる。 ✓ おいしかった料理を話してくれるが、聞くだけで作ることができない。
(2)ない	0人	✓ おいしかったメニューを家の食事に取り入れたりして参考にしている。 など

Q)学校給食について感想や意見を記入してください。

- ✓ 栄養のバランスを考えて、なおかつ子どもが食べやすいように工夫してくださりとても感謝している。
- ✓ 給食を通して食べれるようになった食材があり、給食の力はすごいなと感心している。
- ✓ 手作りふりかけのレシピを教えてほしい。 など

Part.2

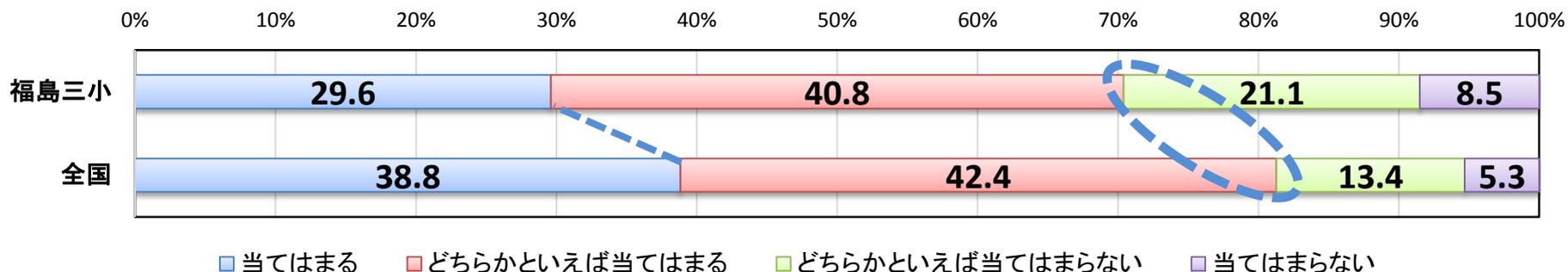
福島第三小学校の

【弱み】Weakness

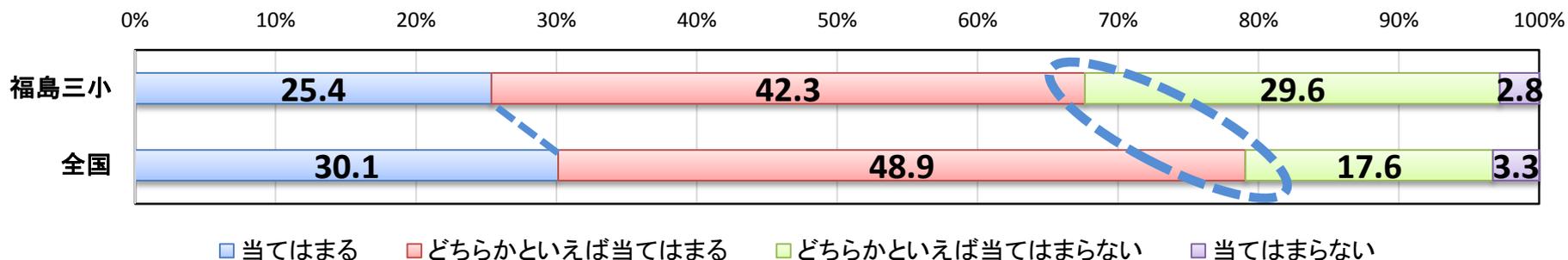
子どもたちの自己肯定感や失敗を恐れず挑戦しようとする態度

- ✓ 「自分にはよいところがある」「難しいことでも失敗を恐れず挑戦する」と回答した子どもの割合が全国平均を大きく下回っている。
- ✓ 子どもたちに自己肯定感や自信を育む教育が必要。

自分にはよいところがあると思いますか



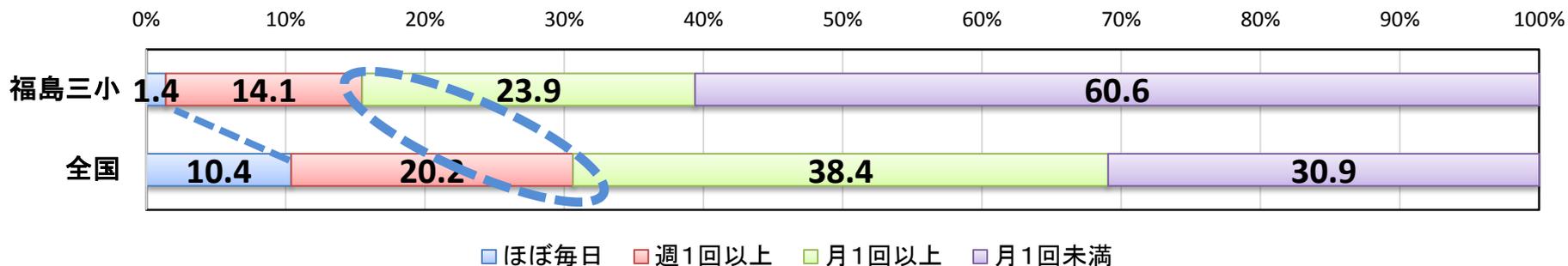
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



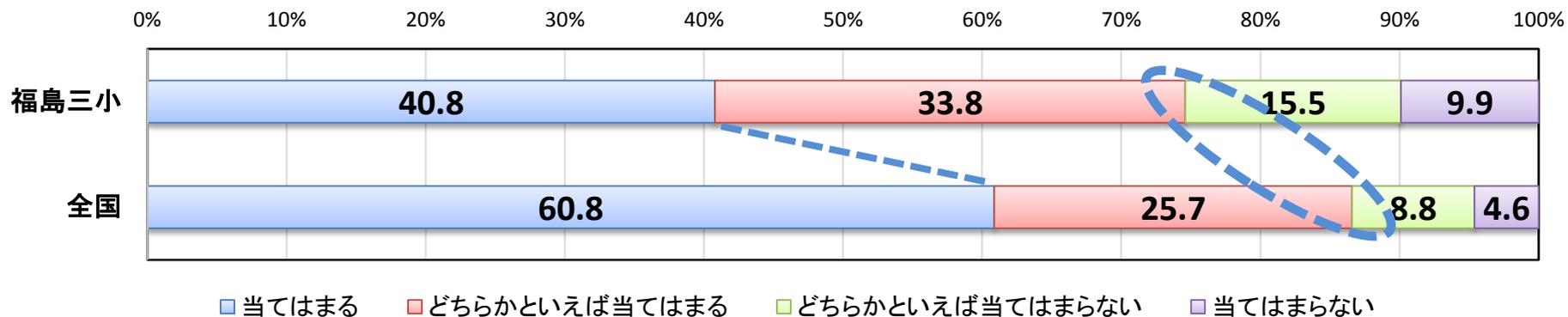
コンピュータなどのICTを活用した教育の現状

- ✓ 環境整備が不十分なため、子どもたちはコンピュータなどのICTを活用した授業をあまり経験しておらず、そのため活用したいという思いも全国平均より低い。
- ✓ ICTを活用した授業を積極的に行っていく必要がある。

5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか



授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか

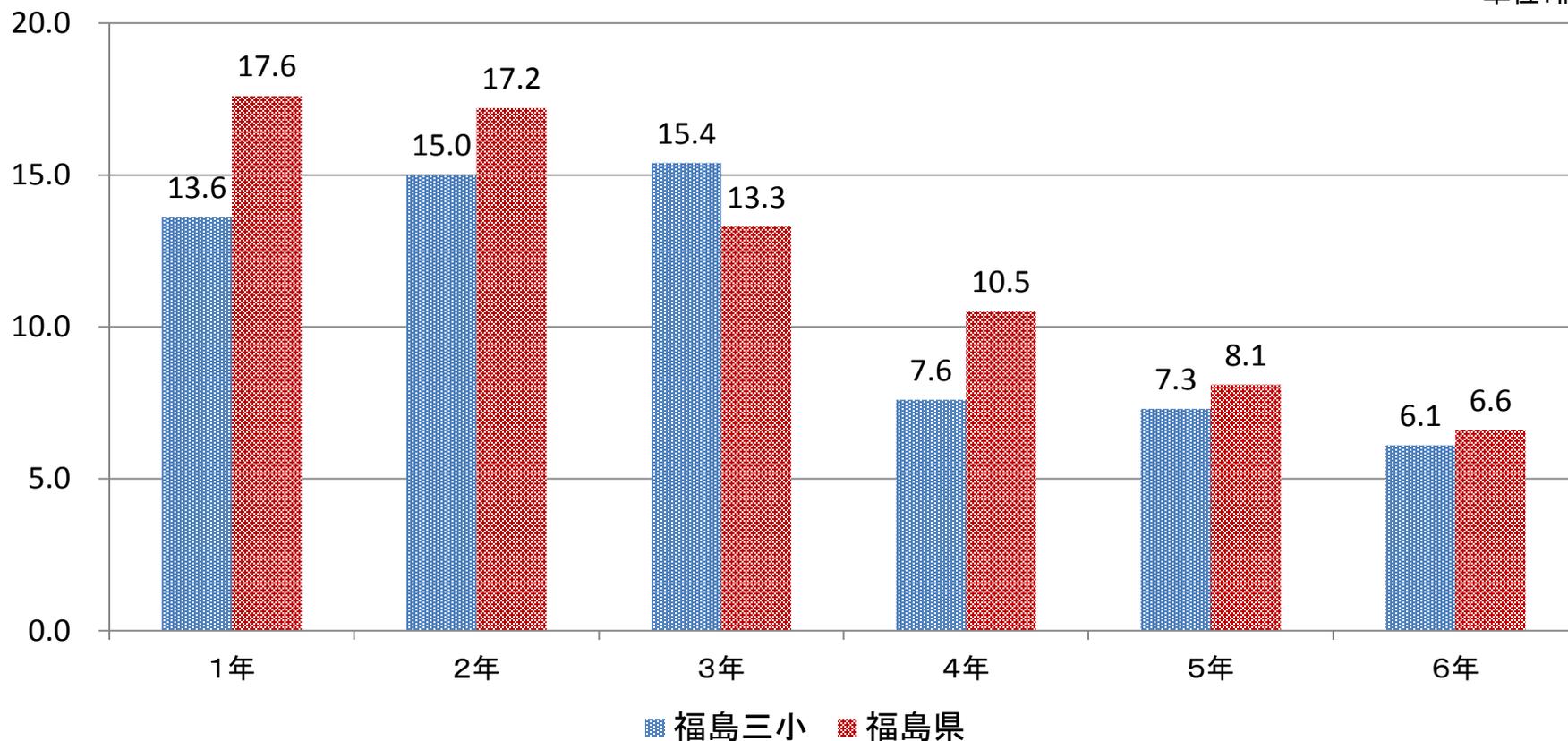


子どもたちの「読書」の現状①

✓ 本校児童の1か月の平均読書冊数は、ほとんどの学年で県平均を下回っている。

学年別1か月の平均読書冊数(H30. 11月)

単位:冊



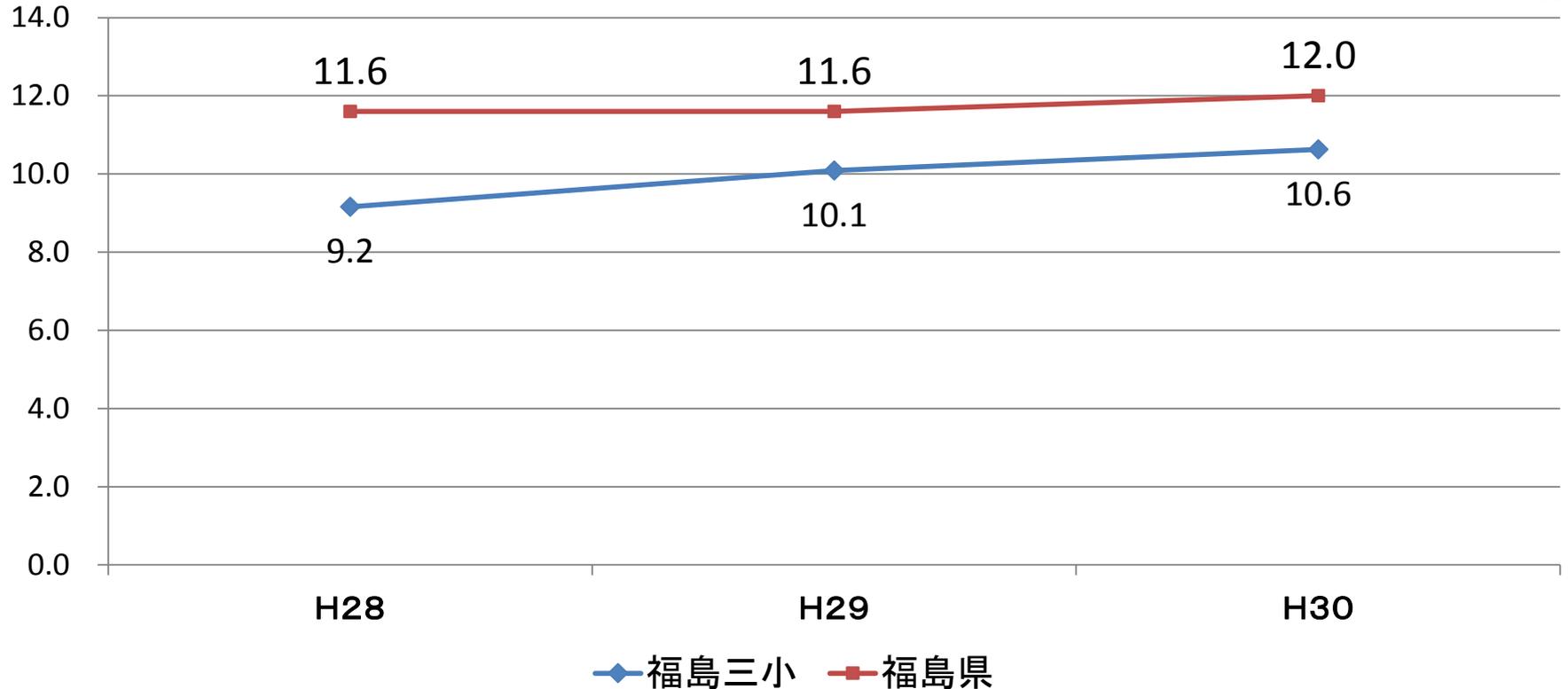
※「読書に関する調査」(福島県教育委員会)より

子どもたちの「読書」の現状②

- ✓ 本校児童の1か月の平均読書冊数(1年生～6年生の平均)の推移をみると、H28～H30の3年間、ずっと県平均を下回っている。
- ✓ 一方、その差は少しずつ縮まっている。

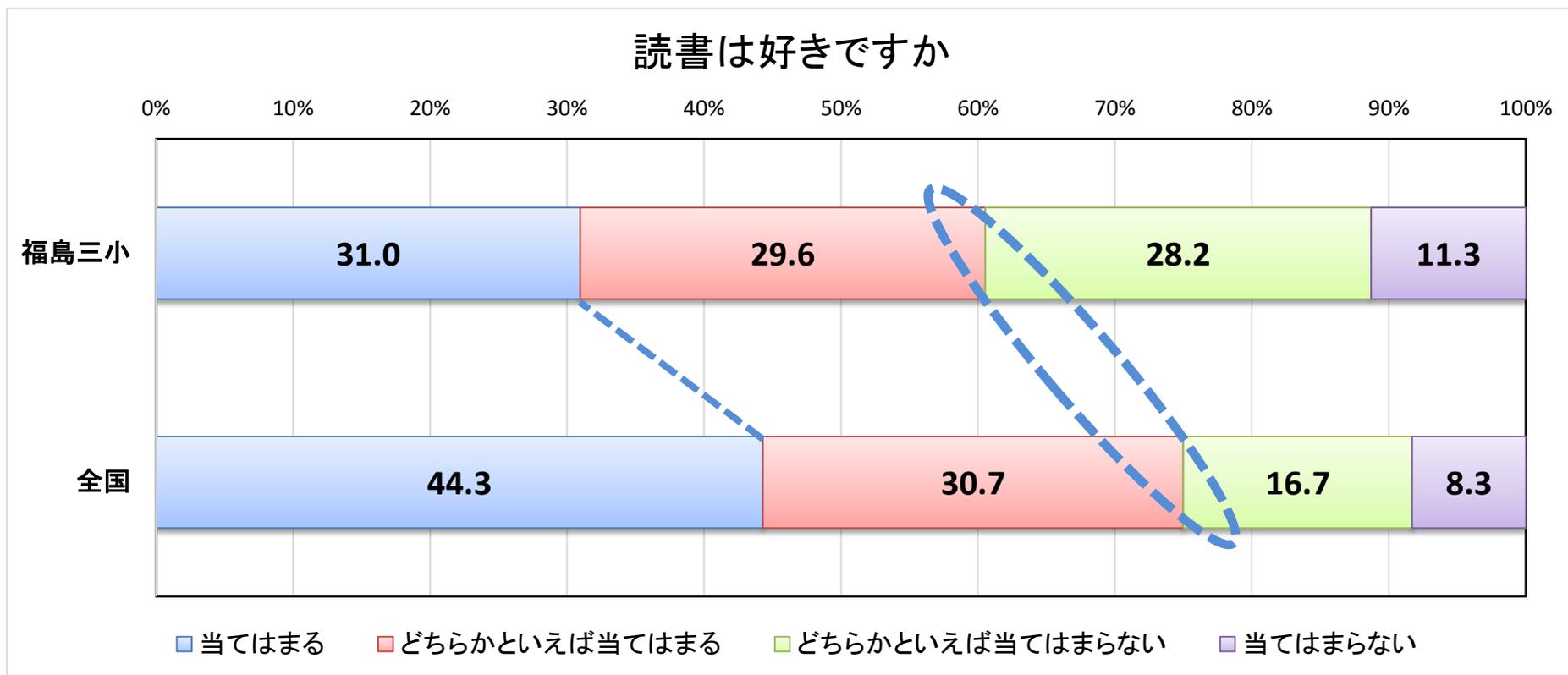
1か月の平均読書冊数の推移(H28～H30)

単位:冊



子どもたちの「読書」に関する意識

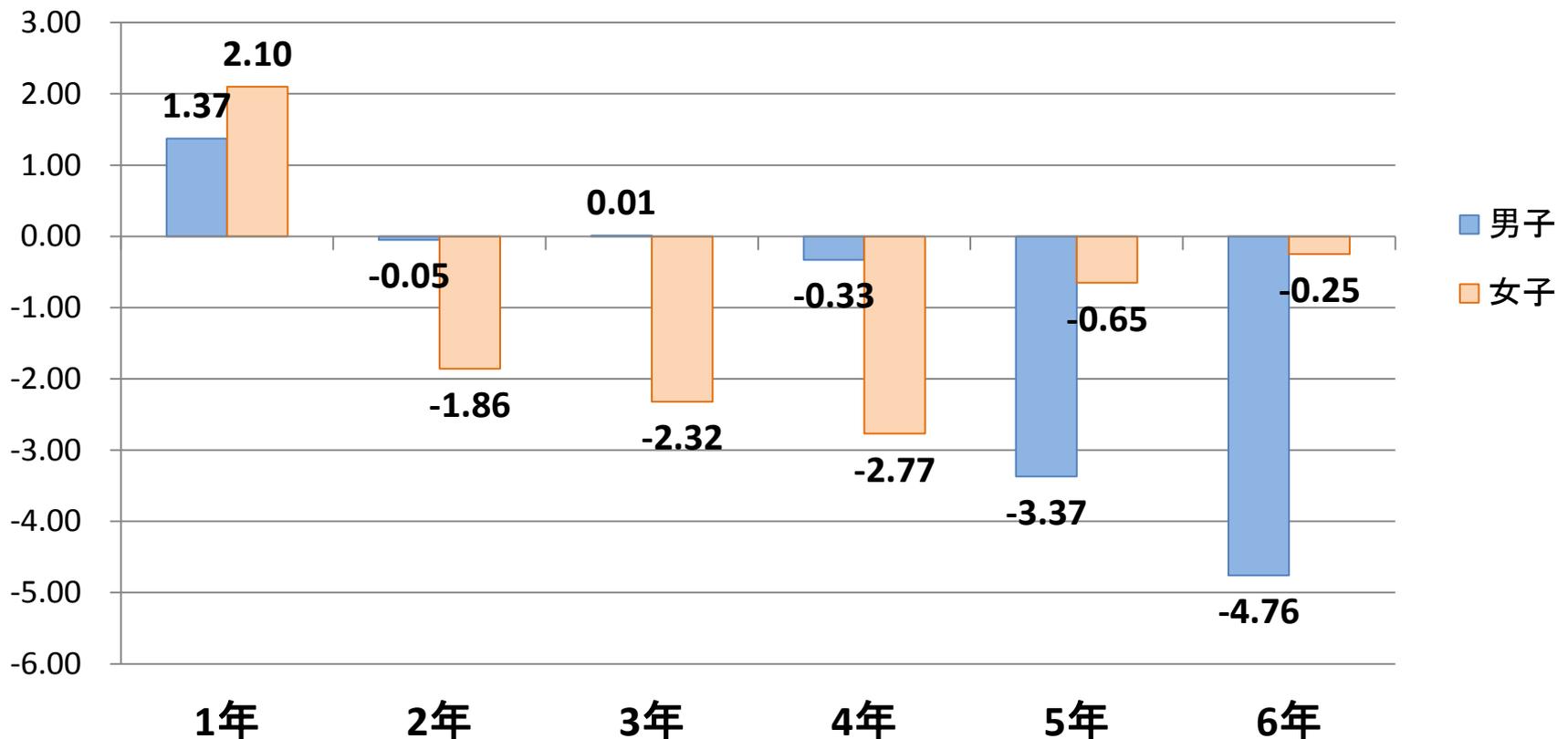
✓ 「読書は好きですか」という問いに対し、「当てはまる」「どちらからといえば当てはまる」と回答した児童の割合は全国を大きく下回っている。



本校の体力・運動能力の状況

✓ 体力・運動能力調査における本校の状況は、ほとんどの学年で全国平均を下回っている。

平成29年度体力・運動能力調査における学年別合計点の全国平均との比較



※ 各学年の合計点を全国平均を「0」と見たときの差で表示したグラフ。数値は全国平均との差を表す。

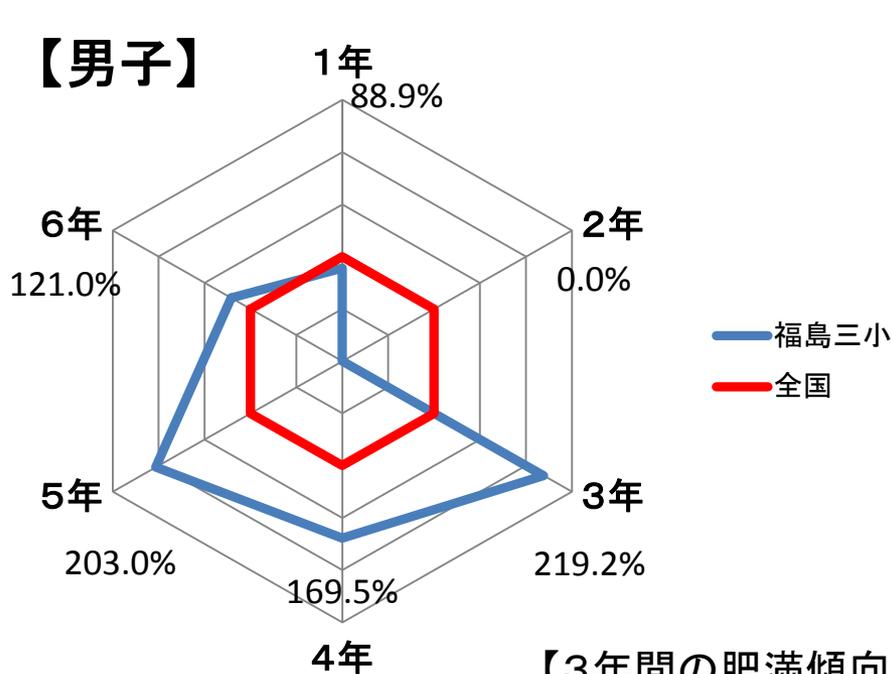
肥満傾向児の割合(全国との比較)

- ✓ 肥満傾向児(肥満度が20%以上)の割合について、男女ともほとんどの学年で全国平均を上回っている。
- ✓ 肥満傾向児の割合は約10%で毎年大きな変化はない。

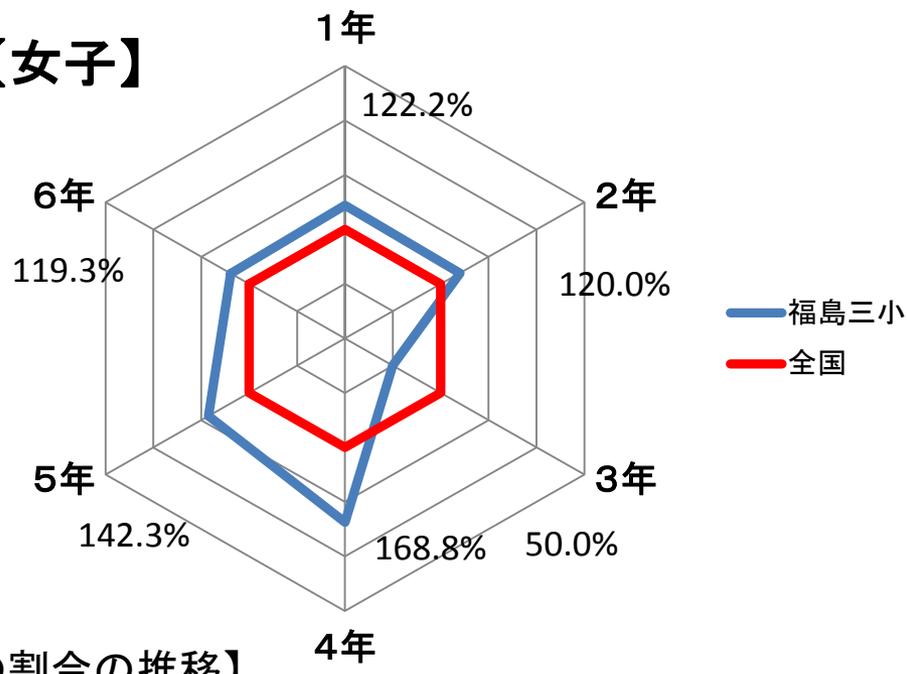
◆「肥満傾向児」とは「肥満度20%以上」の児童

◆肥満度 = (実測体重 (kg) - 身長別標準体重 (kg)) / 身長別標準体重 (kg) × 100

【男子】



【女子】



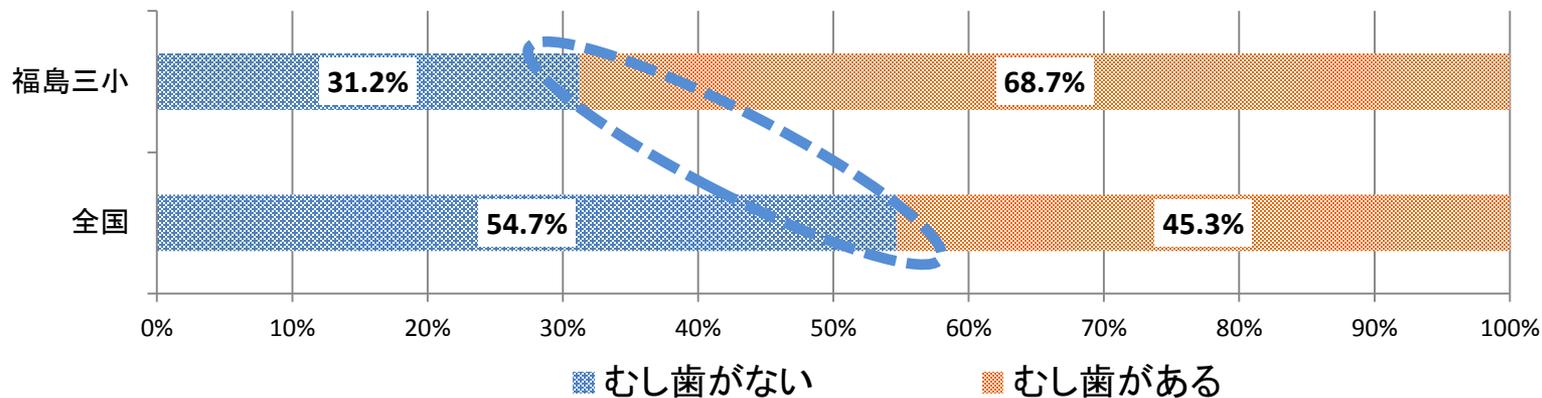
【3年間の肥満傾向児の割合の推移】

平成29年度	平成30年度	令和元年度
10.0%	11.6%	10.9%

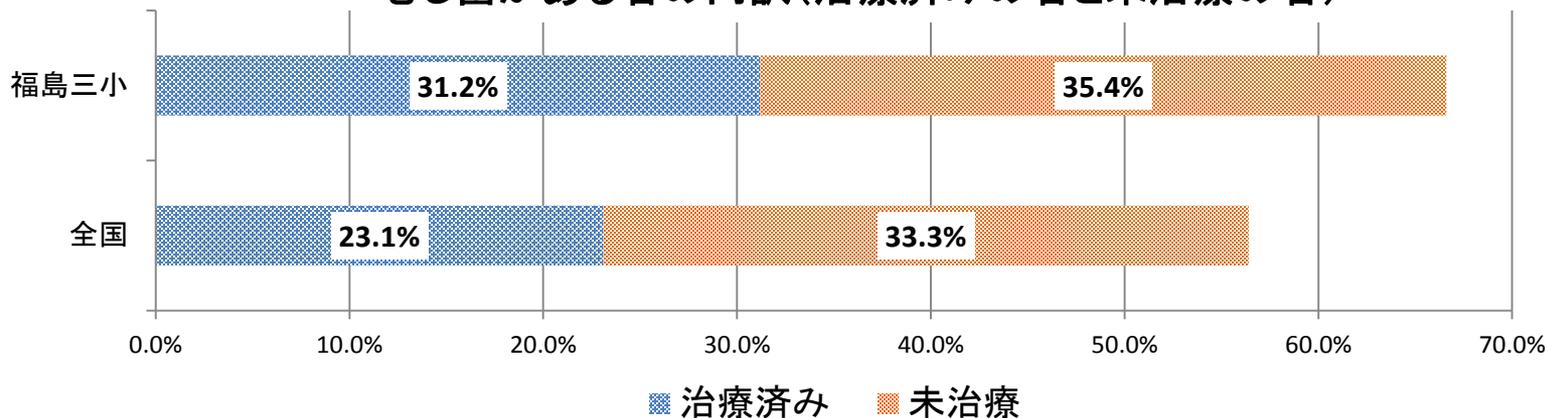
むし歯のある子どもの状況

✓ むし歯のある子どもの割合は68.7%と全国平均を上回っており、未治療の子どもの割合も35.4%と3割を超えている状況にある。

むし歯のある児童とない児童の割合(全国との比較)



むし歯がある者の内訳(治療済みの者と未治療の者)



「働き方改革」の推進が不可欠

- ✓ 長時間勤務の常態化、教員の志願者数の減少などを踏まえ、教育研究校である本校が率先して「働き方改革」に取り組むことが必要。

参考：教職員の勤務の実態（H30.9 文部科学省）

◆ 教員の1日当たりの勤務時間

小学校	7時間45分	2時間45分
中学校	7時間45分	3時間2分

◆ 月20日勤務すると・・・

小学校：1か月55時間の時間外勤務
中学校：1か月60時間40分の時間外勤務

◆平成30年実施の公立小学校の
教員採用試験の倍率
→ 全国平均：2.8倍
(過去最低)

◆令和元年実施の本県公立小学
校の教員採用試験の倍率
→ 平均：1.8倍
(過去30年で最低)

※ 教員の質の確保とともに、教職
を志す若者がいなくなる恐れ

福島第三小学校の正規の勤務時間は

8:10～16:40

しかし、福島第三小学校においても

6:30頃開錠→20:00過ぎに施錠(平均)

という現状

Part.3

福島第三小学校を取り巻く

【機会】Opportunity

子どもたちの読書活動を支えてくれる読書ボランティア・学校司書

- ✓ 読書ボランティアの活動がたいへん活発で、読み聞かせをはじめ献身的に子どもたちの読書活動を支えてくれている。
- ✓ 学校司書が配置され、学校図書館の整備等がしっかりとなされている。



子どもたちが主体的に読書をしようとする仕掛けが必要。

本県独自のスタンダードの積極的な活用

- ✓ 授業の充実を図るための「授業スタンダード」、家庭学習の習慣化と自己マネジメント力の育成を図るための「家庭学習スタンダード」という本県独自の2つのスタンダードが提供されている。

【授業スタンダード】

福島県で頑張っているすべての先生方のための

ふくしまの「授業スタンダード」

～「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、子どもたちの資質・能力の育成を目指して～

新日本大震災及び原発事故を経験した本県だからこそ、困難な課題に対して、多様な視点と知識・技能の取組み、最善解を見いだすことが重要です。子どもたちに必要があります。その力を伸ばすのが、日々の「授業」であることは論をまかせません。

子どもたちが、課題に主体的に向き合い、一人一人がよき役割になりながら解決し、自信を深め、また新たな課題を見いだし解決しようとする……こうした授業の積み重ねが、ついに「社会と幸福な人生の創り手」を育てることにつながります。

授業には、時代が変わっても変わらざるべきことと、時代の変化に応じて新たに取入れねばならないことがあります。「ふくしまの『授業スタンダード』」は、次期学習指導要領を見直し、授業における実践のポイントを定めたものです。

子どもたちのために懸命に頑張っているすべての先生方に感謝します。日々の授業において、そして教科書の編成、積極的に活用してください。

使い方

- 詳細な説明をもっているところから活用してください。
【授業時に「得意なところから授業で」授業後】……………P.2
- 導入【導入】授業前【授業前】授業中【授業中】……………P.3-4
- 授業とともに授業づくりや授業の振り返りに活用してください。
【授業の充実のために】【授業の振り返りのために】……………P.7

平成29年4月
福島県教育委員会

【家庭学習スタンダード】

保存版

ふくしまの「家庭学習スタンダード」

Research
自分を知る

Action
見直す

Plan
計画する

自己マネジメント力

Check
確かめる

Do
自ら学習する

授業は先生や友達と力を合わせて……
家庭学習は自分の力で……
だから育てたい!

現代の子どもたちは、テレビやゲーム、スマホなど、誘惑が多い環境の中で、家庭学習(習慣+自主学習)に取り組んでいくことになります。だからこそ、「R-PDCAサイクル」を通して、自分で学習や生活を改善する力、つまり「自己マネジメント力」が必要になるのです。

変化の激しい時代において、子どもたちが、豊かな人生を切り拓き、よりよい社会の創り手として成長していくことは、私たち大人の共通の願いです。そのような子どもたちの未来像を描くとき、学校での学習はもちろんのこと、家庭での学習を充実させていくことがとても大切になります。

本リーフレット「ふくしまの『家庭学習スタンダード』」は、子どもたちに、家庭学習を通して「自己マネジメント力」を養いたいという願いを込め、作成しました。本リーフレットを仲立ちにして、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たし、子どもたちの家庭学習を充実させていきましょう。

平成29年12月 福島県教育委員会

県内すべての小・中学校で実施している「ふくしま学力調査」

- ✓ 今年度から新たに実施された「ふくしま学力調査」により、一人一人がどれだけ成長できているかを把握することが可能に。子どもたちの自信につなげるとともに、学習指導の充実に結び付けることができる。
- ✓ 本調査の特徴や意義を子どもたちや保護者に十分周知することが必要。

【概要】

学年：小学校4・5・6年生／中学校1・2年生

項目：学力調査（小学校⇒国語、算数／中学校⇒国語、数学）、アンケート（質問紙調査）

【3つの特長】

特長1：毎年 of 学力調査の結果を見比べることによって、1年間の学習の積み重ねを「学力の伸び」として見るができる。（※「学力の伸び」は令和2年度以降（2年目以降）の調査から見るができるようになる。小学校から中学校へとデータは引き継がれる。）

特長2：アンケートの結果から、ルールやマナーを守る意識や、目標に向けて粘り強くやり抜く力などが、どれだけ身に付いているのかが見えるようになる。（これらの力は、学力との関係が高いといわれている。）

特長3：特長1及び特長2の調査結果から、学力を伸ばしている効果的な指導方法を明確にし、授業改善や児童生徒一人一人に応じた指導・支援の充実を図ることができる。

本県独自の「運動身体づくりプログラム」の積極的な活用

- ✓ 本県独自の「運動身体づくりプログラム」を活用し、体育授業の始めの時間に様々な運動を取り入れることにより、体力向上だけでなく、体育の諸目的を視野に「動ける」「動きたい」を合わせ持った身体を育てる。

子どもたちの未来のために！

《改訂》運動身体づくりプログラム

～ 解 説 ～



平成26年3月

福島県教育委員会

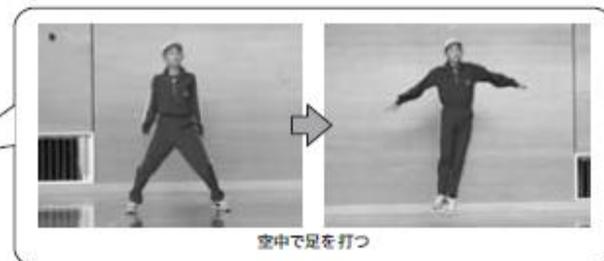
- 室内プログラム(11種目)
- 屋外プログラム(6種目)

【例】

(3) カニ走り(1往復)

① 動きの留意点

- ・真横に進む。
- ・空中で両足を打つ。



② 動きのバリエーション

- ・高く、大きく。
- ・腰の位置を一定にして、リズムを速く。
- ・途中で向きを変える。



③ 声かけ(例)

- ・「足をぶつけて」
- ・「弾むように」
- ・「おへその向きは」

地区のリーダーとして活躍の場を与えられている教職員

- ✓ 県教委や市教委から地区のリーダーとしての役割を期待され、活躍の場を与えられることで更に力量を高めている本校の教職員。

【活躍の一例（令和元年度）】

- 福島市の指導員として、他校の授業を参観し指導・助言に当たっているA先生とB先生
- 福島市全体のICT教育の推進役として活躍しているC先生
- 福島市が独自の作成している外国語教育の教材の作成委員として活躍しているD先生
- 若い先生方のための研修会において、県北地区の代表として自らの実践を発表したE先生
- 特別支援教育のエキスパートとして、福島市全体の就学指導に協力しているF先生とG先生
- 何でもできることで福島市内でも有名なH技能主事



立地条件に恵まれている福島第三小学校

- ✓ 県庁所在地である福島市内の文教地区に位置するなど、様々な立地条件に恵まれ、子どもの学びを充実させる「人・もの・こと」がたいへん豊かである。

【例】

- 福島県庁、福島市役所といった行政機関の中核があるとともに、マスコミや企業の本社機能が集中していることから、専門家の話を直接伺うなど、人的リソースが豊富である。
- 県文化センターや福島市音楽堂などの文教施設、信夫ヶ丘競技場などの公共機関が学区内に点在している。
- 福島市のシンボルでもあり、自然や伝説の宝庫でもある信夫山が学区内にあり、生活科や総合的な学習の時間の貴重なフィールドとなっている。
- 30年以上もの長きにわたり、毎朝本校児童を交通事故から守ってくださっているTさんを始め、保護者、第三地区の様々な方々が本校を支えてくださっている。

Part.4

福島第三小学校を取り巻く

【恐れ】Threat

悪化する福島県民の健康指標(2017年)

- ✓ 厚生労働省「人口動態統計(概数)」によると、2017年の本県の生活習慣病の死亡率は全国でも高く、前年度より悪化。
- ✓ 特定健診でメタボリック症候群に該当した県民の割合(メタボ率、2016年度)は17.3%で、前回15年度より0.2ポイント悪化。全国順位は15年度と同じワースト3位。

【本県の生活習慣病の死亡率(2017年)】

2017年度 ※()は2016年	全国順位 ワースト順	人口10万人当たりの 死亡率
がん	13位(13位)	345.3人(339.2人)
心疾患	6位(7位)	217.2人(208.6人)
脳血管疾患	7位(8位)	128.1人(125.9人)

【メタボリック症候群の該当者割合(2016年)】

2016年度	福島県	全国
メタボ率	17.3%【3位】	14.8%

※ 本県のメタボ率が高い背景には、甘じょっぱい食べ物が好きで塩分過多にある食生活や車移動に伴う運動不足などの要因があるとみられる。

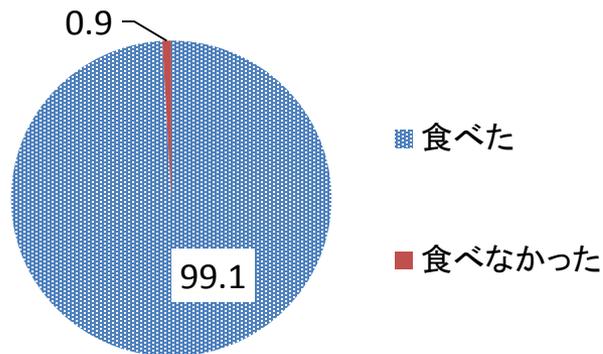
健康長寿を実現するためには、大人だけでなく、子どもの頃からの食習慣の改善や運動習慣の確立が重要。



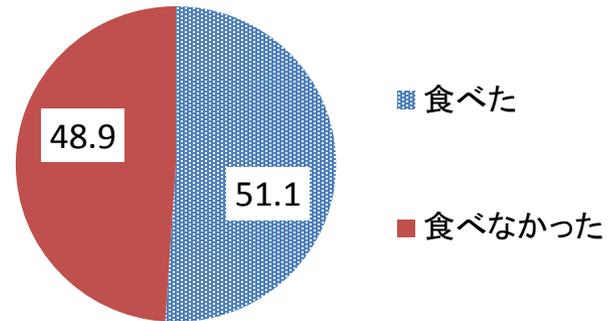
「朝食」のとり方等の状況(県教委・令和元年6月調査)

✓ ほとんどの児童が朝食を食べているが、野菜や汁物の摂取については必ずしも満足できる状況にはない。また、一人で食事をとっている児童も一定程度存在する。

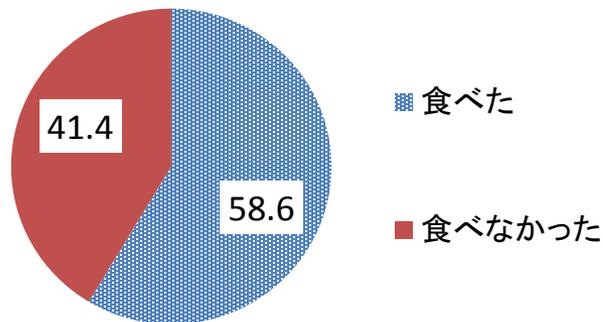
(1) 朝食を食べたか



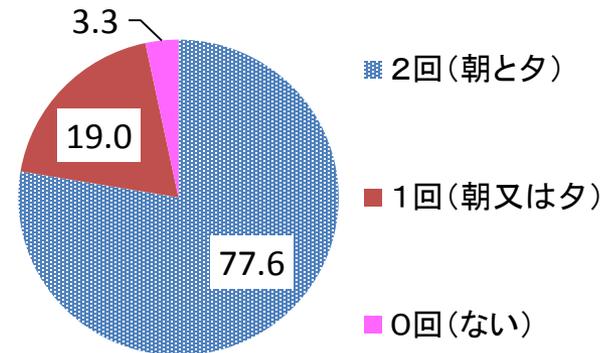
(3) 朝食に汁物を食べたか



(2) 朝食に野菜を食べたか



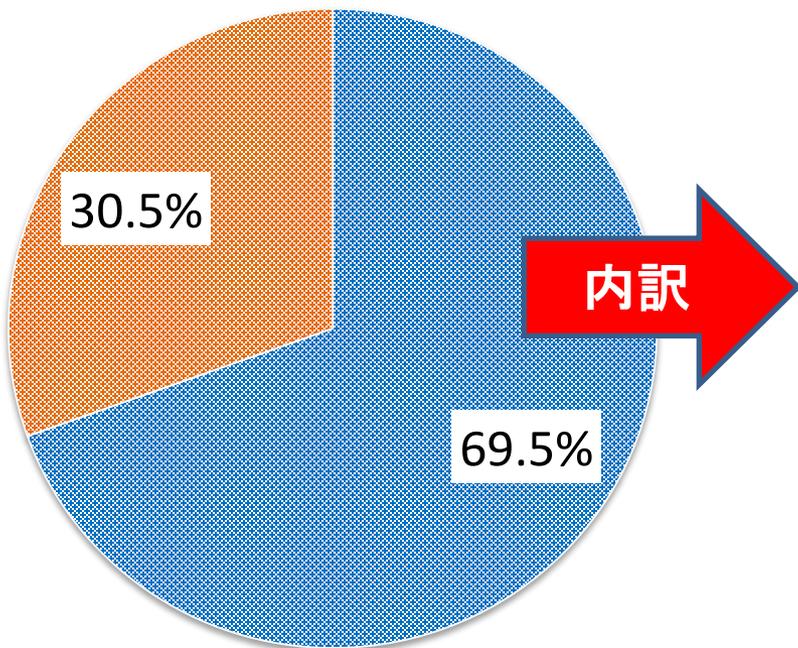
(4) 昼食以外に誰かと食事をした回数



SNS・ネット利用の実態(全校生338名対象)①

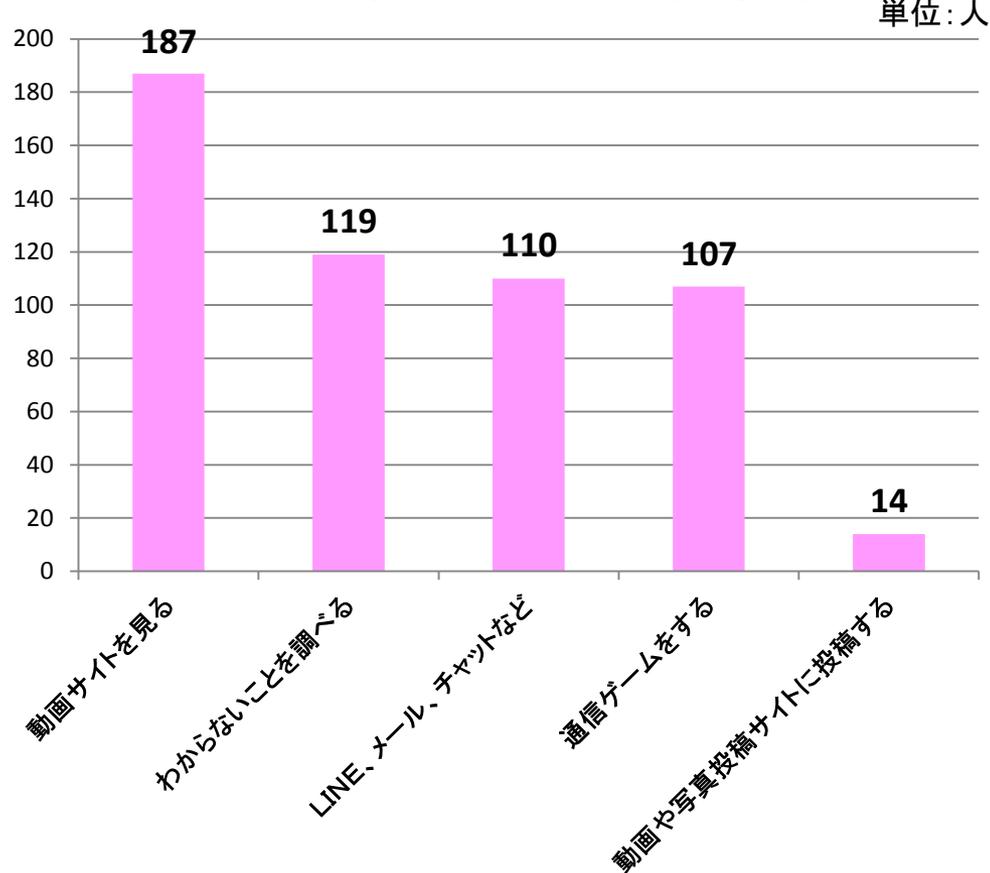
- ✓ 約7割の子どもが家でSNSやネットを利用している。(全校生338名中、235名)
- ✓ 「動画サイトを見る」「わからないことを調べる」などが多い一方、動画や写真サイトに投稿するなど、注意が必要な使い方をしている子どももいる。

SNSやネットなどを利用していますか(全校生対象)



■ 利用している ■ 利用していない

どんなことに利用していますか(複数回答可)

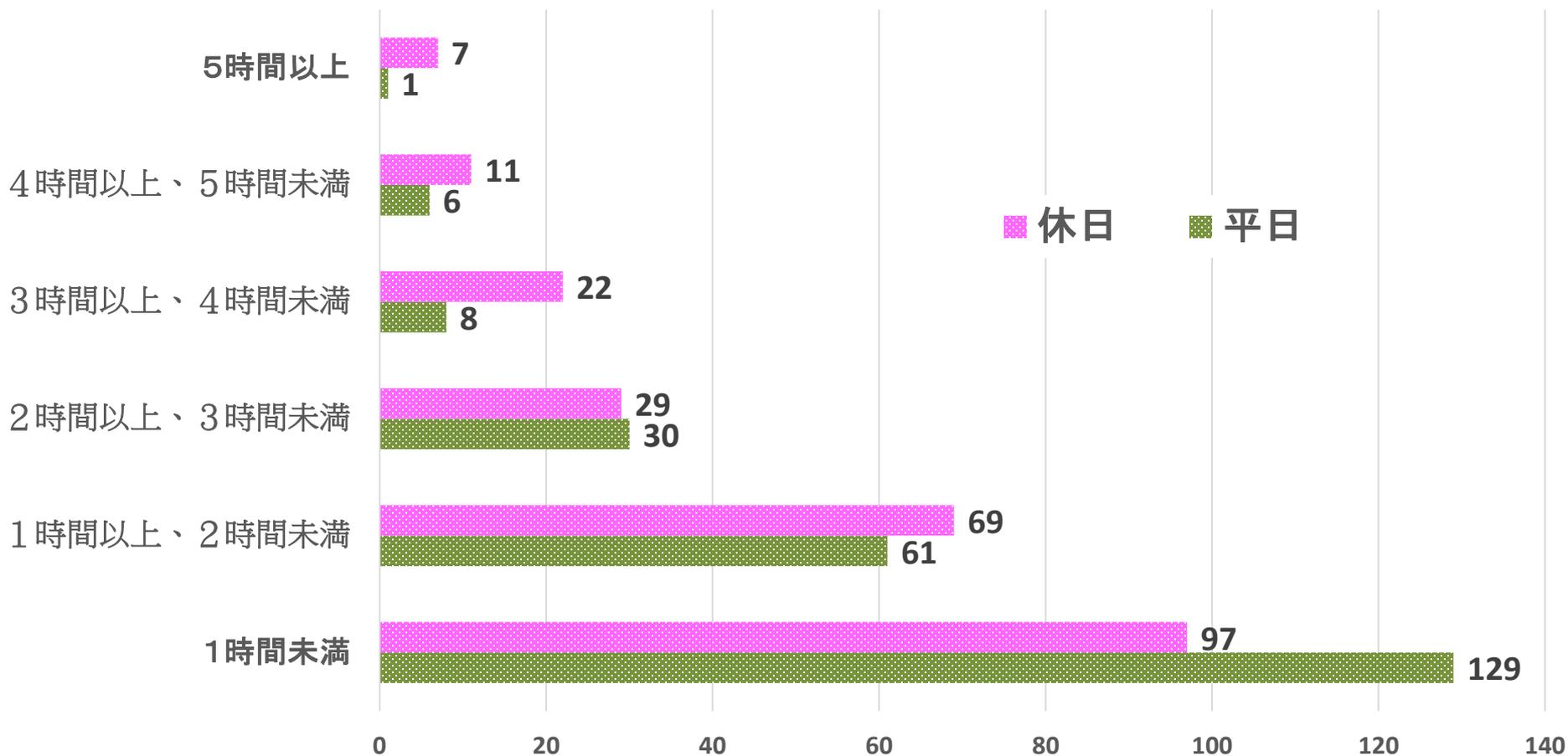


SNS・ネット利用の実態(該当235名対象)②

- ✓ 平日、休日とも利用時間が1時間未満という子どもが多いが、2時間以上利用している子どもが平日は45名、休日は69名という状況である。(235名の状況)

平日及び休日にSNSやネットを利用している時間

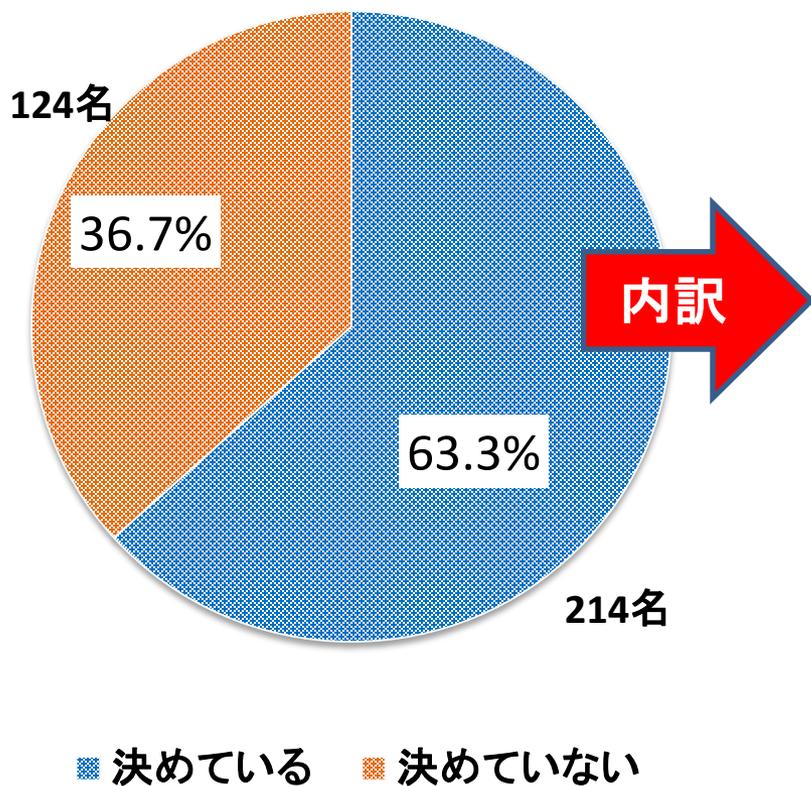
単位:人



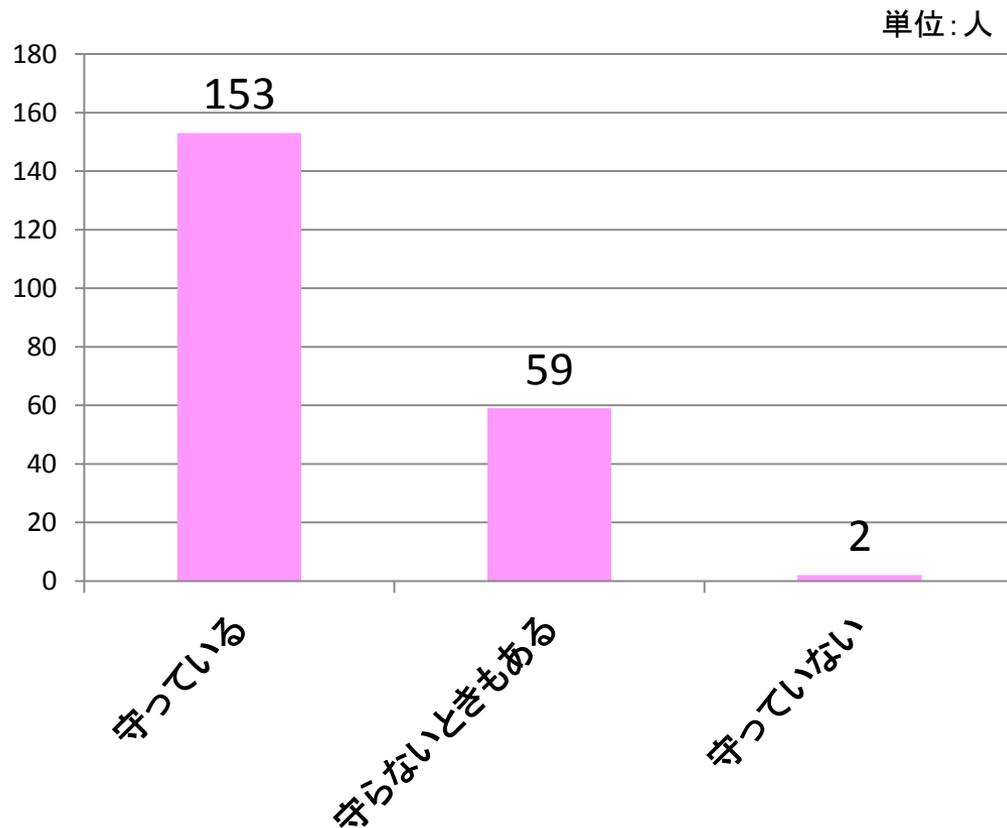
SNS・ネット利用の実態(全校生338名対象) ③

- ✓ 親と話し合っってネット利用のルールを決めている子どもは63.5%にとどまっている。
- ✓ ルールを決めていても守れないでいる子どもが61名いる。
- ✓ ルールを決めていない子どもが36.7%おり、大きな課題である。

親と話し合っってネットを利用するときのルールを決めていますか



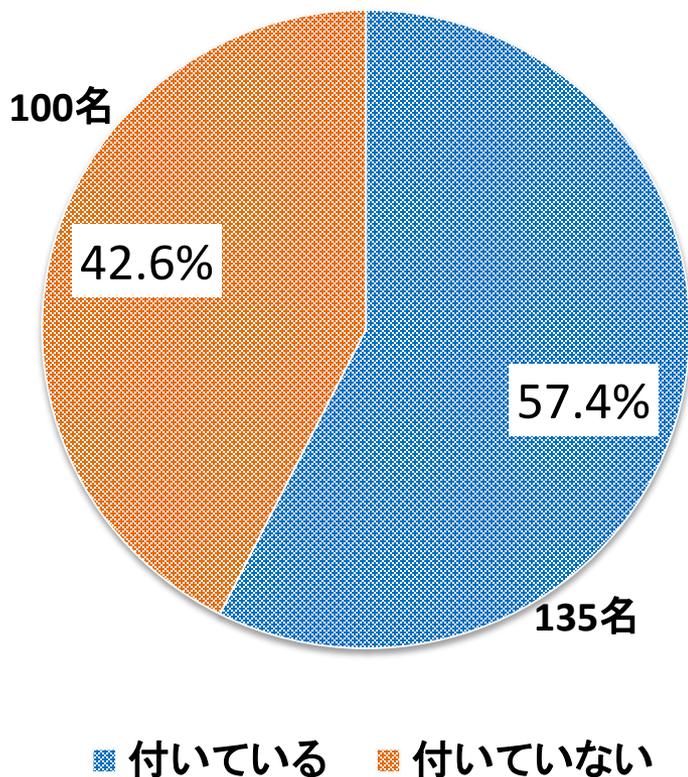
親と決めたルールを守っていますか



SNS・ネット利用の実態(該当235名対象) ④

- ✓ フィルタリング機能のない状況でSNSやネットを利用している子どもが100名もあり、たいへん危険な状況。
- ✓ SNSやネットを安全に使用させる上で、悩んでいる保護者も多い。

使用している機器にフィルタリング機能は付いていますか



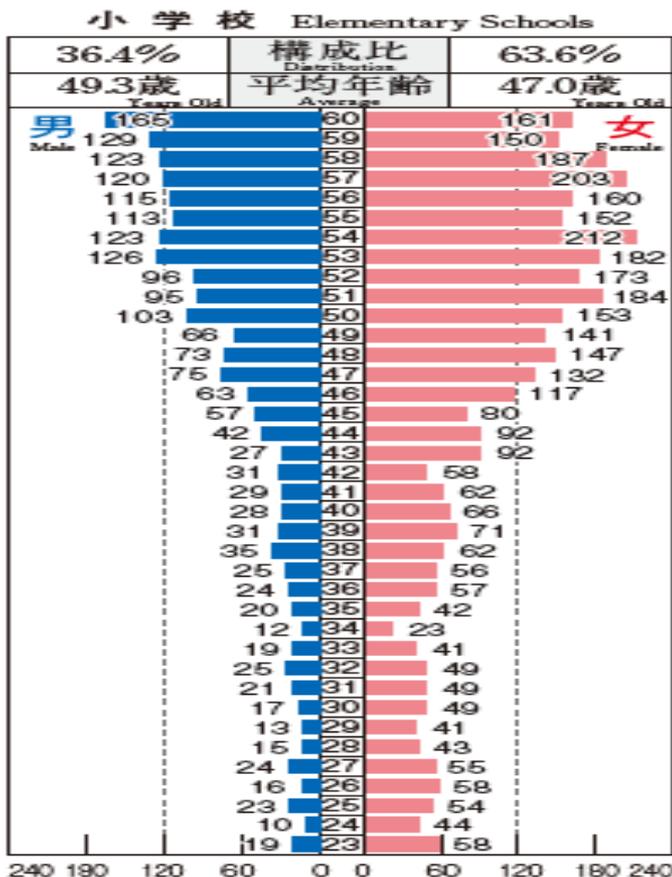
【保護者の悩みの声】(抜粋)

- 時間を決めてやっているが、休日になると朝からやれたがることもあり、癪癪をおこす。ゲームで遊ぶメリットは何なのか考えてしまう。
- 戦闘系のゲームをしているとイライラすることがある。
- 時間になるとストップの声をかけるが、それでも終わらない。
- ゲームに関することへの興味関心が高い。手伝いや課題の見返りにゲームをあげてくることも多く、感情的になってもめてしまう。
- スマホはまだ持たせていないが、高学年になるとどうなるか不安。
- 外で少しでも待ち時間があるとスマホを触りたがる。
- 眼にどれだけの負担がかかっているか。視力の低下が気になる。
- 子ども自身が「時間を意識して使う」「有害サイトを避ける力を身に付ける」ためにはどうしたらよいか。

大量退職・大量採用の時期を迎えている福島県

- ✓ 本校の教職員はベテランから若手までバランスよく配置されている。
- ✓ 一方、県全体を見ると、ベテラン教員の大量退職時期を迎え、様々な経験や知見をどう継承していくかが課題。本校の教育研究・研究公開もその一端を担っている。

【本県小学校教員の男女別構成比(H30)】



圧倒的に多い50代の教員
↓
いずれ退職



教育観や指導技術
等、様々な知見を確
実に伝承することが
不可欠

少ない20~30代の教員
↓
いずれ中核を担う

